

エンテカビル開始4週間後にトランスアミナーゼが著増した臨床経過などから、劇症化する可能性が高いと判断、早期にステロイドパルス療法を施行したことで、重症肝炎、劇症肝炎への進展を予防できたと考えられた。HBV再活性化例に対し、核酸アナログ投与で効果不十分の場合、早期にステロイドパルス療法を行うことが有効と考えられた。

21 当院における固形癌化学療法でのB型肝炎ウイルス検査状況と今後の課題

鈴木 光幸・石川 達*・阿部 聡司*
佐久間 愛・吉田 俊明*

済生会新潟第二病院薬剤部
同 消化器内科*

【目的】当院において固形癌に対して初回化学療法を施行した患者についてde novo B型肝炎対策(スクリーニング検査)がなされているのか調査し今後の課題について考察したので報告する。

【方法】対象は2014年1年間で固形癌に対して初回化学療法を導入した221例。化学療法開始前にHBs抗原、HBs抗体、HBc抗体が測定されているかその頻度につき検討した。

【成績】221例のうち治療開始前にHBs抗原測定例は115例(52%)。そのうち陽性例3例陽性率2.6%であった。さらに、陰性例のうちHBs抗体またはHBc抗体測定例は54例陽性率31.5%であった。HBs抗原測定期間を全体の中央値76日前として検討するとHBs抗原測定は166例(75%)となり陽性率3%であった。

【結論】全例にHBs抗原測定がされておらず、過去データを利用し76日前までさかのぼると測定率52%から75%まで上昇した。固形腫瘍領域では再活性化の報告数が少ないため当院における認知度は決して高いものではないことが示唆された。化学療法開始時にはスクリーニングが必要と思われるため院内全体での啓蒙とともにアラートシステムの構築が必要と考えられた。

22 今年度の肝疾患相談センター活動報告と今後の肝炎行政のあり方についての概要

高村 昌昭***・野田 順子**

上野 徳子**・寺井 崇二***

新潟大学大学院医歯学総合研究科
消化器内科学分野*
新潟大学医歯学総合病院
肝疾患相談センター**

肝疾患相談センターは、新潟県内では肝疾患診療連携拠点病院である新潟大学医歯学総合病院に設置されている。肝疾患診療連携拠点病院では、①肝疾患についての一般的な医療情報の提供、②県内の専門医療機関に関する情報の収集や紹介、③医療従事者や地域住民を対象とした研修会・講習会の開催や相談支援を行っている。平成26年度の相談件数は平成27年1月末時点で102件であった。相談者は30-70代で約半数を占め、C型慢性肝炎の治療やその副作用に関する相談が多かった。患者様および一般住民を対象とした講演会として、市民公開講座、院内および出張肝臓病教室を開催している。医療従事者を対象とした講演会では、肝炎治療コーディネーター養成研修を行っており、次年度はコーディネーターのフォローアップの会を企画している。

平成26年度は、肝炎総合対策の推進のための予算として187億円の予算が計上されている。現状はB型・C型肝炎ともに十分な掘り起こしがされておらず、厚生労働省は次年度に肝炎掘り起こしの研究班を組織することを検討している。他施設でも様々な肝炎拾い上げの試みがされており、当院でも光学診療部門から拾い上げのシステムを行うことを検討している。また「知って、肝炎プロジェクト」が立ち上げられた。これは自治体の首長を肝炎サポーターの芸能人が表敬訪問する形で、肝炎総合対策を国民運動として推進する試みである。厚生労働省は潤沢な予算が計上されているうちに、肝炎の掘り起こしから治療まで行いたいという考えである。